

会議等結果報告書			
会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	330
		決裁期日	平成22年12月27日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第10回）		
日時	平成22年12月22日（水） 午後6時30分～午後9時05分		
場所	保健福祉総合センター2階ボランティア室		
出席者	委員 6人 町長、町民生活課事務局 3人 合計 10名		

## 内 容

## 〔進行：町民生活課長〕

三島会長から、昨年度上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会で作成した「協働のまちづくり基本指針（素案）」を基に今年度協働のまちづくり推進委員会を新たに組織し、基本指針の策定に取り組み、パブリックコメントを経て「協働のまちづくり基本指針」を作成したので向山町長へ提出した。

向山町長から、みなさんがお忙しい中、10回もお運びいただき、様々な議論を重ねご苦労いただいたことのねぎらいとお礼のことばが述べられた。

町長退席

## あいさつ

三島会長： 今回で10回目となり、町長へ基本指針をお渡しした。次に概要版の作成を進めていきたいと思う。

## 議題

## 1 協働のまちづくり基本指針概要版について

内容の協議

三島会長： 事務局から資料の説明をお願いする。

吉岡主幹： 概要版について説明。

- ・ 過日送付した資料は2種類のもを送ったが、事務局内部でも協議し、1枚にまとめた。

三島会長： 推進準備委員会で行った5回のワークショップの結果も重点にしていきたい。

町民生活課長： 今回は出席委員が6名ということで過半数を割っているため、1月の会議で最終決定にしたいと思う。広報1月25日号に概要版をはさんで全戸配布したいと考えている。今日である程度完成させ、次回はあまり訂正することない様終わらせたい。

松下副会長： アンダーラインを引いてある部分はわかりづらいので太字にするといいと思う。

吉岡主幹： では、アンダーラインをやめて、太字にしたいと思うがよろしいか。（了承）

「協働のまちづくり」ってなに？を読み合わせる。

久我委員： 20日のものより今回の方がさらに良くなったと思う。

三島会長： 上から2つ目の吹き出しの「道路に花を植える」という言葉は変えたほうがいいのではないか。

松下副会長： 道路沿いという言葉でいいのではないか。

吉岡主幹： では「道路沿いに花を植える」と訂正したいと思う。

町民生活課長： その上の「町の広報」を「町の広報誌」に変えたほうがいいと思う。また、タイトルの「概要版」の言葉は右側に持ってきたほうがいいと思う。

松下副会長： 上から3つ目の吹き出しの「草が伸びていないかとか」の部分が言葉足らずのように感じる。

町民生活課長： 下の吹き出しで花壇作りの話もしているので、そこも入れるといいと思う。

松下副会長： 管理の中にごみ拾いも入っている。

町民生活課長： 「花壇作り、草刈り、清掃など」に変えるといいのではないか。

吉岡主幹： では、「草が伸びていないかとか」の部分を「花壇作り、草刈り、清掃など」に変えたいと思う。

町民生活課長： 「きめ細かく公園の管理ができるんだ。」を「きめ細やかに公園の管理をしているんだ。」としたほうがいいと思う。

久我委員： 子どもが「草ぼうぼうのときがないから遊びやすいよ。」としゃべっているが、子どもはこんなことを言わないと思う。

町民生活課長： 「いつもきれいな公園になっているから遊びやすくなったね。」としたほうがいいと思う。

1ページ目、最後の吹き出しの「よりよいまち」を「住みやすいまち」にしたほうがいいと思う。

松下副会長： 講演会の話は入れないほうがいいと思う。お父さんの考えではなく受け売りというふうに感じてしまう。

吉岡主幹： では、そこは削りたいと思う。

どうして協働が必要なの？を読み合わせる。

吉岡主幹： 2つ目の吹き出しは高齢者の数が増えるとしていたが、高齢者が増えるのが悪いことかという感じに思われるので、高齢者の割合が増えるという言葉に変えている。

松下副会長： 少子高齢化という言葉は高齢者に軸足が置かれすぎていると思う。子どもの目線はなくていいのかと感じたのだがどうだろうか。子どものことを入れないのならば高齢化社会としたほうがいいと思うのだがどうだろうか。

町民生活課長： 子どもが少なくなって高齢者が増えているが、高齢化して体が動かなくなっていく人を助けるということが必要になってくると思うので、子どものことをどうしても入れなければならないということではないと思う。

吉岡主幹： 高齢者の割合が高くなることを言うため、少子を残してある。

松下副会長： みまもり隊などもやっているが子どもが少なくなったからやっているということではない。そういったことが少し引っかかってしまう。

吉岡主幹： しかし、少子を残しておかないと高齢者が増えて悪いというイメージを持ってしまうと思う。

町民生活課長： 高齢者が増えることが悪いのではなく、体の不自由なお年寄りが増えていくからみんなで助け合おうということだと思う。

吉岡主幹： では、少子のことは削りたいと思う。

町民生活課長： 「日本の少子高齢化」というふうになっているが、うちの町のことだけでいいと思う。

「その背景の一つに高齢者の割合が年々高くなってきていることがあるんだ。」とするとまとまると思う。

次の吹き出しの「ああ、でも、」の部分はいらぬのではないか。

吉岡主幹： では、削りたいと思う。

久我委員： 上から4つ目の吹き出しにも「普段から地域のお付き合いが大切」と入っているが、ここ

も太字にするのだろうか。

吉岡主幹： 太字にしたいと思う。

町民生活課長： 2ページの最後の吹き出しの「満足な行政サービス」を「十分な行政サービス」にするといいと思う。また、「行政に求めることがふくらんできて」を「行政に求めることが多くなってきて」にするといいと思う。

松下副会長： 2行目の「公共サービスなんだ」というだけだと言葉が足りないと思う。

町民生活課長： 「公共サービスをしていたんだ。」とする方がいいと思う。次の行の「けど」も必要ないのではないか。

久我委員： 必要ないと思う。

吉岡主幹： では、削りたいと思う。

町民生活課長： 次のページのお母さんの説明も言葉足らずだと思う。

吉岡主幹： 講演会の話がなくしたので、ここでもなくしたいと思う。

町民生活課長： これらを解決するために地方分権につなげるといいと思う。「これらを解決するために、地域のことは地域で決定して行おうという地方分権の考え方が進んでいるのね。」だとどうだろうか。

松下副会長： 前のページの1番下のお父さんの話を変えればお母さんのほうにつなげやすくなるのではないかと。「このままでは、同じような公共サービスでは十分な行政をすることは難しくなってきた。」というふうにする方がいいのではないかと。

町民生活課長： 「このままでは、十分な公共サービスを継続することは難しくなっているんだ。」という文章のほうがわかりやすいと思う。

松下副会長： 一律では難しいということをお願いしたいので、それらしいことを言ってお母さんが「それを地方分権と言って、自分たちのことは自分たちでしなきゃならないんだね。」というような流れにした方がいいのではないかと。

町民生活課長： 同じような公共サービスというのは国と同じようなという意味でいいのだろうか。

松下副会長： そういう意味、国が決めてきたやり方では難しくなってきたということをお願いしたい。

久我委員： 3ページのお母さんの言葉を考えたのだが、「私たちの地域のことは、地域のみんが求めるサービスを私たちが考えることをできるんだね。それって地方分権とかいうのかしら？」というふうにしたらどうだろうか。

松下副会長： 最終的にどうして協働が必要なのかという答えを言わなければいけないので、お母さんの次にお父さんのセリフが必要だと思う。このままだとどうして協働が必要な？の結論まで至っていないと思う。

町民生活課長： ひとくちメモのところをまとめて、お父さんの言葉に変えるといいと思う。

松下副会長： ここまでに、お父さんの言葉でどうして協働が必要かを書いてあるが、途中に入ってしまったので、今までの言葉を踏まえてこうだというものを書けばインパクトがあると思う。

吉岡主幹： そこを変えていくとお母さんの言葉も多少変わってしまうかもしれないが変えようと思う。地域の人が地域のニーズを考えてやる方がいいと思うので、役所が一律にやってしまうと、地域に合ったことにならなくなる。そのようなことがお父さんの最後の話になればいいと思う。

町民生活課長： しかし、行政も自由にできるようになってきているのであまり地域にこだわらずに、昔の流れと今の流れが違うということを書けばいいと思う。

吉岡主幹： 国が全国一律、市町村が地域にあったことをやる。さらに住民が参加することによって地域のニーズにあったことができるということだと思う。その辺のことをお父さんの言葉でしめればまとまると思う。

協働したらどうなるの？を読み合わせる。

町民生活課長： 「節約できる」という言葉は有効利用や有効活用というような表現に変えたほうがいいと思う。

吉岡主幹： いいサービスが安くできるという意味合いで書いてある。

松下副会長： 「町民の目線でまちづくりができるのね。」というのはどうだろうか。

吉岡主幹： それだといいと思う。また、次の吹き出し協働はちょっと時間かかるということも書いてあるがどうだろうか。

久我委員： 何回も会議を開いてそんな面倒なことかと思う人もいるのではないか。

松下副会長： それなら「時間がかかるんだ。」ではなく、「かかるかもしれないけども、町民のアイデアが～」というふうにするといいのではないか。

町民生活課長： 「町民の目からよく見える」という表現もわかりづらい。

吉岡主幹： 行政運営の透明性が高まるということがいいのだが他の表現はあるだろうか。

久我委員： 「町民によくわかる」というようにするといいのではないか。

松下副会長： しかし、それだとその前に「みんなが納得行く仕事」という部分もあるので重複したような形になってしまう。いっそのこと、ここを削ってしまって、その前の部分を「納得のいく仕事ができるようになるんだね。」というふうにするといいと思う。

吉岡主幹： では、透明性の部分は削りたいと思う。

町民は何をするの？を読み合わせる。

町民生活課長： 2つ目の吹き出しの「まちづくりの活動に参加する」を「ボランティア活動などに参加する」に変えたほうがわかりやすいのではないか。

吉岡主幹： そのように修正する。

久我委員： 「あたたかい感じがするよね。」という表現では合わないのではないか。

吉岡主幹： 私としては、町内会の行事に参加すると以前から知っている人が多く、接しても良くしてくれるし、暖かい感じがするので率直に言葉にした。では、どのようにしますか。

久我委員： ふれあいサロンが各地区で行われているので「ふれあい」という言葉を入れてもいいと思う。「人と人がつながるし、ふれあうことが楽しいよね。」にするとどうだろうか。

吉岡主幹： では、そのようにしたいと思う。次の吹き出しのお母さんの言葉がくどいので、「近所付き合いも大切ね。町内会の行事にもでなくちゃね。」を削りたいと思う。

町民生活課長： その上の「関心を持たなきゃね。」を「関心を持って参加しなくちゃね。」にすると前の吹き出しと合うと思う。

吉岡主幹： お母さんの「今度、みんなで集まったら、話題にしてみようかしら。」が最後だとしまりがなくなってしまうので削りたいと思う。

行政は何をするの？

町民生活課長： 「職員は、地域の一員として、地域の行事に積極的に参加するのは当然だよ。」という表現では厳しいと思う。「当然」ではない言葉で表現したい。

吉岡主幹： 「参加することが必要」という表現にしたいと思う。

町民生活課長： 次の文も職員のことを言っているので、「まず職員は、地域の一員として、地域の行事に積極的に参加することや町民の意見にじっくりと耳を傾け、それを実現する意識が必要だよ。」にするといいと思う。そして、「町民がまちづくりに～」の前に「行政は」という言葉を入れないと主語がなくなってしまう。

吉岡主幹： では、「行政は」という言葉を入れたいと思う。そして吹き出しを分けて作りたと思うがどうだろうか。

町民生活課長： 分けずに1つのまま作ったほうがいいと思う。項目ごとに区切っていけば見づらくな  
らないと思う。

吉岡主幹： では、改行して作っていきたいと思う。「講演会や研修の機会を設ける」も変えようと思  
うがどう変えるといいだろうか。

町民生活課長： 行政のことなので、断定的にしてもいいと思う。また、その前の「必要がある」とい  
う言葉を消していいと思う。

松下副会長： 「人材を育成するため、講演会や研修を設ける」にするといいと思う。

町民生活課長： 一番下の「考えるとたくさんやることがあるね。」というのは答えとなっていないの  
で、削っていいと思う。行政の部分の説明は箇条書きにしてもいいと思う。

吉岡主幹： 前に点や丸を設けて本当の箇条書きのようにしたほうがいいのだろうか。

町民生活課長： 作ってみて見やすいようにするといいと思う。

吉岡主幹： 「講演会や研修を開催する」にしたいと思う。一度箇条書きにして、違和感がなければそ  
れで作りたいと思う。

松下副会長： 箇条書きにするならお父さんの最初の部分に「いろいろなことが考えられるね。」と言  
ってから書き始めれば会話にもなると思う。

吉岡主幹： そうしたいと思う。では、早速修正し、それを配付するので、次の会議に再度意見をいた  
だき完成したいと思う。

## 2 今後のスケジュール

吉岡主幹： 今後のスケジュールは概要版の協議中に説明したため省く。

## 3 その他

松下副会長： 概要版が完成してから1月に全戸配布するが、一度出したら終わりというふうにするの  
か。今回の概要版だけですべてを網羅することは無理だと思っているので、来年以降、個別のもの  
を広報のページを使って作ってはいけないだろうか。

吉岡主幹： 今年度は、広報お知らせ版で見開きで2Pずつ割いて、協働の特集をしている。今後も紙  
面を確保することは可能なので、毎回なのか、2回に1回でいいのか、シリーズで説明することは  
できる。

松下副会長： 例えば、高齢者編や地域編などを個別にして説明するといいのではないか。

吉岡主幹： 個別には今年度やってしまっているのでは、重複してしまうかもしれない。

松下副会長： 概要版を一度出しただけでは住民に周知することはできないと思うので、知ってもら  
う方法をいろいろと考えなければならない。

町民生活課長： 今後推進するための施策の検討をする予定なので、今話題になったことも考えていき  
たい。

吉岡主幹： 協働のまちづくりの講演会について、内容をどうするか、講師をどうするか、この委員会  
で協議して進めていきたい。

## 閉 会

[ 会議終了：21時5分 ]

## 上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

10

	所属団体・機関の名称	氏名	備考	12月22日
1	住民会長連合会	上村 勉		
2	住民会長連合会	松下 力		
3	社会福祉協議会	持安 弘行		
4	NPO法人たんぼぼの会	三島 功士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬川 英樹		
6	商工会	境 一義		
7	生活安全推進協議会	島瀬 良一		
8	女性連絡協議会	中澤 正子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥田 哲也		
10	公募	大内 和行		
11	公募	徳武 良弘		
12	公募	久我 みち子		15分遅刻
13	公募	平倉 範子		

6